



学校便り

だしる

自主・向学・協調・練磨

錦江町立田代中学校

令和8年2月20日発行

合い言葉 **やればできる**

頂点を極めるための努力

校長 土岐 邦寿

今年2月、イタリアのミラノとコルティナ・ダンペッツォを中心に、冬季オリンピックが開催されています。大会は2月6日に開幕し、22日までの期間、世界92の国と地域から2871名のアスリートが参加し、16の競技・116種目に挑んでいます。大会では日本の選手たちが大活躍しています。しかし、その輝きの裏には、長い年月をかけたたゆまぬ努力があります。

スノーボード男子ハーフパイプで金メダルを獲得した戸塚優斗選手。彼は前回大会では思うような結果を残せず悔し涙を流しましたが、その後も基礎から練習を積み直し、今回の大会では2本目で高難度の技を決めつつ95.00点を叩き出し、ついに金メダルをつかみ取りました。失敗や挫折を乗り越える強い心が、大舞台で実を結んだ瞬間です。また、フィギュアスケート・ペアで日本史上初の金メダルを獲得した三浦璃来選手と木原龍一選手のエピソードも印象的です。ショートプログラムではミスが出て5位と出遅れましたが、あきらめることなく「自分たちの滑りを出し切る」ことに集中。フリーでは歴代最高得点を叩き出し、見事に逆転優勝を果たしました。ミスを恐れず挑戦し続ける姿は、まさに努力の積み重ねが形になった瞬間です。さらに、スキージャンプの二階堂蓮選手も、“努力の積み重ね”を体現しています。初出場ながら、男子ノーマルヒルで銅、ラージヒルで銀とメダルを連日獲得。しかしその裏には、体格差が不利とされる競技で技術力を徹底的に磨き、風や踏切のタイミングを何度も何度も研究してきた努力がありました。1本目でトップに立ちながら逆転を許した悔しさを糧に、さらに成長しようとする姿も印象的です。

こうした選手たちの姿は、「努力は嘘をつかない」という言葉を改めて感じさせてくれます。大舞台での成功は、特別な才能だけでなく、日常の小さな積み重ねによって支えられています。皆さんも、勉強や部活動、人との関わりの中で、できることを一つずつ続けていけば、必ず成長につながります。

先日、卒業生の川路蒼馬さんが、校長室に表敬訪問してくれました。中学生の時もモトクロスで活躍していましたが、九州地区年間ランキング2位でした。高校生になり、勉学に励みながら昨年度の悔しさをバネに日々努力を続け、今年度は九州地区および中国地区で年間チャンピオンに輝きました。チャンピオントロフィーを見せてもらいました。光り輝いていました。話を聞くと、中学時代にはしていなかった持久力を高めるための体力作りにチャレンジしているそうです。努力すれば花開きますよね。今後の活躍も期待しています。

本校の卒業生やオリンピックでの日本代表の活躍は、ただの結果ではなく、努力し続けることの大切さを私たちに教えてくれる物語でもあります。皆さんも、自分自身の“オリンピック”に向けて、今日の一步を大切にしていきましょう。



